

[通常機体]ケ M 「0080 ポケットの中の戦争」

## ケンプファー

機体名	ケンプファー	画像
型式番号	MS-18E	
英語名	KAMPFER	
所属	ジオン公国軍	
パイロット	ミハイル・カミンスキー	
装甲材質	チタン・セラミック複合材	
装備	ショットガン×2 ジャイアントバズーカ×2 シュツルム・ファウスト×2 ビームサーベル× 260mm 機関砲×2 チェーンマイク	
作品名	機動戦士ガンダム 0080 ポケットの中の戦争	
参考書籍	MG 1/100 <u>ケンプファー</u>	

### 内容

ケンプファーは、YMS-18 構想に含まれる素案の内 E タイプ ( einhauen typ = アインハウエンテュープ = 襲撃型 ) に分類される機体に相当し、単騎での対 MS 戦と敵防衛線突破能力の獲得に特化された機体である。

(「kampf」には白兵の意味も含まれる。)

機体各所に配置された大推力のバーニアスラスタによって一撃離脱の強襲を行い、拠点や敵主力を陥落するのである。

その用兵に基づき、火器携帯用のラッチが各所に設けられ、さらに、ジェネレーターの出力低下を防ぐため、ビーム兵器はビーム・サーベルのみである。

装甲の形状も、スラスタなどはほとんどむき出しで、前傾姿勢における前面投影面積が小さいと言えるが、突撃後の " 帰還 " に関してはほとんど省みられていないとも言える。

ただし、" 敵防衛線突破能力 " を戦略レベルで考えれば、この機体は、偽装した民間のコンテナ艇でパーツを搬入し、敵勢力の真っ只中、町工場レベルの設備と人手で建造されていたのだから、稼動した時点で、すでにその性能を十分に発揮していたとも言える。

無論、その作戦を遂行した " サイクロプス隊 " が優秀だったこともあるだろうが、それもこの機体でなければ不可能であっただろう。

結局、MS-18 ケンプファーは「確たる戦果」をあげることはできなかったものの、後の AE やネオ・ジオンにおいて、同様の、あるいは近しいコンセプトの機体が建造されたことから、ケンプファーは十分に " 優秀な機体 " であったといえることができる。

言わば " 早すぎた機体 " だったのかもしれない。

### 備考

#### 建造

MS-18E ケンプファーは、U.C.0079 年 12 月 14 日にサイド 6 のリポーコロニーにパーツの状態で搬入され、公害の廃工場において、サイクロプス隊のメンバーのみによって建造された。

#### YMS-18 構想

既存のカテゴリーに拘らない、MS そのものの新たな運用法やコンセプトを開拓することを目標としていたと言われている。

(一説には、ドムとゲルググの間のような機体や、NT 能力の戦術利用も含めた機体プランなども存在したらしい)。

## スペック

項目	内容
全高	17.7m
頭頂高	
全長	
本体重量	43.5t
全備重量	
ジェネレーター出力	1550kw
スラスタ推力	159000kg
センサ有効半径	

## 各部詳細

各部	説明
HEAD UNIT	MS-18E のヘッドモジュールは、試作機である YMS-18 の基礎構造をもとに、対 MS 格闘戦などに対応するため、モノアイを保護する形状となっており、また、近接戦闘時の防御用に 60 mm 機関砲を内装している。MS-18E の頭部は、 <u>グフ</u> 系の機体のヘッドユニットが多く用いられており、最終装甲は突撃姿勢の状態でもっとも強度が高くなるように設計されている。加えて、モノアイから後頭部に至るスリット部分はサブセンサーアイちなっており、モノアイのサイト外の情報も収集できるように配慮されている。実際、突撃姿勢時にモノアイに死角が発生しないよう、ヘッドユニットとボディユニットの連結には特殊な形状のモジュールが設けられており、既存の機体とは一線を画すこの機体の特徴ともなっている。
COCKPIT	詳細追加の予定あり。追加時に改訂。
ARM UNIT	詳細追加の予定あり。追加時に改訂。
LEG UNIT	詳細追加の予定あり。追加時に改訂。
WEAPONS	詳細追加の予定あり。追加時に改訂。

Jin.Akira - (2008 年 07 月 19 日 09 時 27 分 10 秒)

cool